

批評と紹介

「フェルビースト通信集」

について

矢澤利彦

Correspondance de Ferdinand Verbiest de la
Compagnie de Jésus (1623—1688) Directeur
de L'Observatoire de Pekin. Bruxelles, 1938.

一九三〇年以降、マッテオ・リッチ、アダム・シャル、フェルディナンド・フェルビーストを中心とする在華宣教師の業績に對する研究、および彼等の回想録・書簡集の刊行が相ついで行われてきた。Bernard 師のリッチ、Väth 師のシャル、後藤末雄氏のフランス・イエズス會士の研究は誰しも知るところであらうが、このほかにもリッチについては D'Elia 師による世界地圖研究『Il Mappamondo Chinese del P. Matteo Ricci. Roma, 1938』と回想録 Storia

「フェルビースト通信集」について 矢澤

dell' Introdutione del Cristianesimo in Cina. Roma, 1942) の出版があつたことは本誌の三六卷三號に紹介して置いた通りである。なお同じリッチに關しては、その回想録のトリゴールによるラテン譯からの重譯である Gallagher, Louis J.; China in the Sixteenth Century: The Journals of Matthew Ricci: 1583—1610. New York, 1953. と傳記である Cronin, Vincent; The Wise Man from the West. London, 1955. の刊行が最近行われ、英語だけでもリッチのことは一通り分るごとになつた。またリッチよりも前に中國に到來した Galeote Pereira, Gaspar da Cruz, Martin de Rada 三名の手記を英譯して解説と脚註を附した Boxer, C. R.; South China in the Sixteenth Century. London, 1953. も西洋文獻であらわれた中國事情を究めるための貴重な業績である。シャルについては前記ケルナル師によつて回想録である Relation Historique (Lettres et mémoires d'Adam Schall S. J.) が Paul Bornet の手になる佛譯を附して一九四二年天津で出版されつゝ、これは同師の L'Encyclopédie astronomique du Père Adam Schall (Monumenta Serica, t. 3. 1938) とならんでシャル研究上の有益な文獻である。そのほか宮廷畫家として乾隆帝に奉仕したカスティリオーネ

ジョージ・ロehr, George Robert; Giuseppe Castiglione (1688~1766) Pittore de Corte di Ch'ien-Lung. *Imperatore della Cina*. Roma, 1940. が出版されたことは知っているけれども、残念ながらまだ入手していないのでなんとも批評できない。

リッチ、ジャール、フェルビースト三巨人のうちでまだ本書の意味の傳記が作られていないのはフェルビーストだけである。H. Bomsan 師の Ferdinand Verbiest, Directeur de l'Observatoire de Peking (1623~1688) (*Revue de Questions Scientifiques*, LXXI, Bruxelles, 1912) は便利な書ではあるが、フェルビーストの宮廷天文學者としての業績に重點を置いた研究であつて傳記とは言えないものである。このボスマンはもともと數學史を専攻した人であつて、彼がフェルビースト研究の道に入つたのもその目的からであるという。同師はやがてフェルビーストならびに中國で彼の仕事に協力した同國人についての多數の資料を集め、第一次大戦前すでにフェルビースト通信集の出版を意圖したが、戦争のため着手することができなかつたということである。ここに紹介する *Correspondance de Ferdinand Verbiest de la Compagnie de Jésus* (1623~1688) Directeur de l'Observatoire de Pekin. Bruxelles, 1938. はイエ

スス會の H. Josson, L. Willaert 兩師がボスマンの原稿に多少の變改を加えて公刊したものである。一九三八年という二十一年近くも昔のことになるからいまさら新刊紹介というわけにもいかないが、第二次世界大戦の直前、わたしは外國雜誌で本書の出版を知り、これを取寄せて紹介しようとな願しながら戦野に運び去られて果さなかつた因縁があるので、ようやくこれを入手したのを機會にすこしく詳細に紹介して置きたいと思う。

本書は序文・見出し・索引なども加えて六一九頁に及ぶ巨冊であり、載録された書簡の數は八十通に上つている。このうちでフェルビーストが差出したものは同僚宣教師と共同署名のもの三通を加えて六十一通、彼に宛てられたものは、北京教屋居住宣教師宛てのもの一通を加えて十九通、書かれた言語から分ければラテン文五十七通、ポルトガル文五通、スペイン文八通、フランス文四通、オランダ文四通、ロシア文二通という内譯になつている。このうちフェルビーストの康熙帝への上奏文四通、康熙帝の上諭一通はもと漢文で書かれてあつたものに相違ないし、ロシア文のもの原文はラテン文であつたわけであるが、そのほかのものはすべて書かれたままの原文である。さまざまな言葉で書かれているために通讀には甚だ困難を覺えるけれども、史料としての意義は

それなればこそ一層高いと言わなくてはならない。

本書の構成はつきよくなつてゐる。

(1) はしがき。本書が出版されるまでに至つたいきざつを記したものの。

(2) 緒論。フェルビーストの簡単な傳記を述べながら、個人の事實がどの書簡に觸れられているかを指摘したものの。

(3) 本文。八十通の書簡の各自について、發信地、發信日、發信者、宛名者、原書簡が保存されている場所、これまでに發表されたことがあればその書名、翻譯があればそれが掲載されている書名、書簡内容のフランス語による簡単な解説を記し、ついで本文が載せられている。また脚註において書簡中に見える人名などに對するごく短い説明が行われているが、これは充分なものとは言えない。

(4) 附録。ボスマンはフェルビースト通信集に入れているが、編者はそれを不適當だと考えた三つの文獻、すなわち一六八四年十月二十三日附、布教聖省代牧への服從宣誓書、および四月二十七日附 Paulu宛てに右宣誓書を送附したことを證言した文書、一六八四年十二月二十六日附、中國の曆において日の吉凶を決めるに際し、欽天監の演ずる役割についての論文が掲げられている。

(5) 文獻。a フェルビーストと著述。編者は Couplet, Carton, Sommervogel, Pfister, Cordier, Courant, Van Hee 諸氏の研究を綜合してフェルビーストには五十九種の著述があつたとし、その名を掲げているが、惜しいことに漢文著書の原名があがつていない。b フェルビーストに關する研究。c 一般參考文獻。

(6) 索引。

これによつてうかがえるように本書は個人書簡集としてはよく整理されている方であり、ことにフェルビーストが受信した書簡をも納めていることは非常に結構である。もつとも當時北京にあつたほかの宣教師の書簡も關連のある限り載せてはしかつたとか、中國語の個有名詞にはすべて漢字を比定して貰いたかつたとか、いろいろの注文がないわけではないが、ラテン語・スペイン語・ポルトガル語・フランス語・ロシア語というような各種の言葉で書かれた史料を一書のかなかに見事に整理した編者の辛苦は大いに買わなければならなると考へる。本書の發刊によつてわれわれはようやくフェルビースト傳を書くための根本史料を得たわけであり、宮廷宣教師の性格を解く鍵を得たことになる。またこれらの書簡のなかには十七世紀の中國事情を解明するために大いに役立つものもある。こういつた問題に興味をもつ人々の便宜にもな

るかと思えて、やや冗長とは思うが、Josson, Willaert 兩師の解説にもとづき、八十通の書簡おのおのの内容について簡単な説明を加えて置いた。文中に Sangrius→Verbiest 一六四五年二月十一日とあるのは Sangrius が一六四五年二月十一日附で Verbiest に送った手紙という意であり、(羅)とあるのはその手紙がラテン語で書かれていることを示す。

- (1) イエズス會副會長 Charles Sangrius→Verbiest 一六四五年二月十一日。機會が到來していないことを理由にフェルビーストの布教地派遣を拒否したもの。(羅)
- (2) Verbiest→イエズス會長 Vincent Carrafa 一六四六年十一月二十六日。インド布教への派遣を懇願したフェルビーストの會長宛書簡のうちの一つ。(羅)
- (3) Vincent Carrafa→Verbiest 一六四七年二月二十三日。派遣者の數が満員であることを理由に布教地派遣を拒否したもの。(羅)
- (4) イエズス會長 Goswin Nickel→Verbiest 一六五五年七月十日。海外派遣を熱望するフェルビーストの根氣のよさを賞揚し、中國に派遣される見込のあることを通知したものの。(羅)
- (5) Verbiest→イエズス會士 Ignace Melgaert 一六

五六年二月末。一六五六年一月八日、ジェノア發のオランダ船に乗つて十二名のイエズス會士とともにリスボンへ向つたが、途中船はフランスの海賊船に拿捕され、フェルビーストは船上に人質として監禁された。下船を許されたのを機に逃亡してジェノアに戻り、十六日リスボンに到着。(羅)

- (6) Verbiest→Philippe Couplet 一六六〇年七月五日。西安滞在八箇月にしてアダム・シャルルから北京に呼ばれ、一六六〇年五月九日西安發、六月九日北京着。出發時および旅行途中における中國當局の歡待。(蘭)
- (7) Verbiest→Goswin Nickel 一六六一年初頭。シャルルが修曆を主宰することは中國の迷信に協力することだという非難があり、一六六〇年中國布教巡察使 Simon da Cunha が北京に來つた。この問題に對してさき

に下された教皇廳の解答はシャルルに好意的なものであつたが、一點だけ未解決なものがあつたので、これを明らかにするための來朝であつた。結果はその點もシャルル側に有利に解決された。しかしそれでも攻撃がやまないでフェルビーストはこの「辯明書」を書いてシャルルに關しては非難されるべきなものもないことを論斷した。末尾に Michel Trigault と Jean François

de Ferrariis 自筆の同意書、Jean Grueber 自筆の反對聲明書を附す。後者には Louis Buglio と Gabriel de Magalhaens がシャルルの欽天監在任に反對して提出した七條の異議が再録されている。(羅)

- (8) Verbiest→Goswin Nickel 一六六一年四月十三日。北京東堂長 Magalhaens が北方のある町の長官の母のものである巨額のかねをあずかつた。このかねは不法手段によつて手に入れられたものだといふので同神父も共犯として告發され、Buglio, Jorge らの宣教師も逮捕され、中國布教は甚大な危機に陥つた。シャルルがこれらの神父のために取なしを行うことは中國では自分が共犯であることを表明することと同じであるために何の行動も採れなかつた。(羅)

- (9) Verbiest→Philippe Couplet (?) 一六六一年五月七日。康熙帝の祖母がシャルルに對してなみなみならない好意を寄せていること、北京の九つの巨大な鐘のうちの一つを取替えることをシャルルが頼まれたこと、この神父の誕生日に皇子や學者が祝賀のために來ること。

(蘭)

- (10) Verbiest→Jean Grueber 一六六一年五月七日頃。前便の鐘についての詳細な記述。これらの鐘とエルフル

「フェルピースト通信集」について 矢澤

トの大鐘との比較。(羅)

- (11) Verbiest→中國副管區長。一六六六年九月一日頃。死去前數週間のシャルルの生活、彼の病氣、八月十五日の彼の死、故人に對する讞辭、八月二十九日の葬式。(羅)

- (12) Verbiest→Flandro-Belge 管區の管區長。一六六七年九月三日。一六六一年の順治帝崩御後、宣教師に對する好遇は憎惡に變り、宣教師達は投獄され、鎖でつながられるに至つた。三箇月來フェルピースト、Buglio, Magalhaens の三人は刑部の命で教宅に監禁され、殘りの中國在住全宣教師は南方へ追放された。八月二十五日幼帝は實權を掌握するに至る。(羅)

- (13) Verbiest→イエズス會士 Adrien Grelon. 一六六八年四月十八日。教宅に監禁されている間にフェルピーストはこれまで知らなかつた天體現象(實際は黃道の光)を觀察し、役人達から説明を求められる。これについていくらか空想的な理論を述べたもの。(羅)

- (14) Magalhaens, Buglio, Verbiest→イエズス會諸神父。一六六九年一月二日。筆をとつたのは Magalhaens である。一六六八年聖誕降臨祭までに朝廷で起つたことも、特に楊光先と吳明烜とに關して。十二月二十五日

四人の役人の訪問を受け、神父達のなかに一六六九年用時憲曆を修正できる者があるかと問われたこと、フェル

ビーストが楊と吳とに挑戦することになったこと、三人が一定時にある杭の影が到達する點を豫測し、その結果を見る實驗を三回繰返し、神父の勝利に終つたこと、楊と吳とが全く困惑したこと、二十九日に神父は吳明烜が作製した一六六九年用の曆書および遊星運動表を検討する命を受けたこと、曾つて神父達の迫害者であつた一人の態度が一變して友好的になつたこと。(葡)

(15) Verbiest → 康熙帝。一六六九年一月。前年十二月二十九日に受取つた吳明烜編の二書に、その誤謬訂正表をつけて皇帝に返上した際に呈した上奏。兩者を比較検討されて御明察を得たいと述べている。(佛)

(16) Buglio, Magalhaens, Verbiest → 康熙帝。一六六九年六月二十一日。康熙帝親政を機に四輔政大臣の失政に苦んだ者は嘆願書を出すよう命ぜられたので、それに答えて奉呈した上奏文。シャルへの不當な待遇に對して名譽恢復を行つてほしいこと、また楊光先との争いにフェルビーストが勝利を得たことをのべ、さきに順治帝が敬意を拂つたキリスト教に對して公許を布告してほしいこと、宣教師が大逆を圖つたとする非難と宣教師の廣

東追放に抗議して、彼等を再審してほしいということなどを述べている。(羅)

(17) Verbiest → Couplet 一六七〇年一月二十三日。康熙帝はまだ年が若く、何ものにも妨げられることなく實權を行使できるまでに至つていない。皇帝はフェルビーストに役人の稱號を持たずに欽天監を掌握することを認められた。朝廷が頼みにしているのは自分だけなのであるから、この職務を立派に果すために必要なかねは自分が自由処理すべきであろう。これについて副管區長に要求したところ、彼は當地の宣教師達に不愉快な感じを與えることを避けようとして慎重な手紙をよこしている。(蘭)

(18) Verbiest → Rougeman 一六七〇年一月二十三日。副管區長に對する右の要求についてこどもも述べている。役人達の間で暮すよりもキリスト教徒のなかに入つてすごしたいが、自分の義務はここに留まらなければならぬ。(蘭)

(19) Verbiest → Couplet 一六七〇年八月二十日。以下三通の書簡はいずれも廣東留仰中の宣教師に宛てた同日附。順治帝の靈廟に使用する巨石を積んだ車を、卷轆轤と複滑車とを使つてある橋を通過させることに成功し、

皇帝とその部下を満足させたこと。北京を訪問したポルトガル使節について。(羅)

- (20) Verbiest→Rougemant 一六七〇年八月二十日。皇帝がなせ右の仕事をフェルピーストに委任したかを述べ、皇帝に三つの科學的玩具を呈したことを、さきに宮城内の庭園の井戸にポンプを据え着けたが、もう一つ作るようにと命ぜられたこと、ヨーロッパの珍奇品をある王に贈つたこと、別の王も庭園にポンプを備え着けたいと欲していることなどを書いてある。(羅)

- (21) Verbiest→Jacques Le Faure 一六七〇年八月二十日。皇帝が宣教師達に好意を示していること、しかしポルトガル使節の北京滞在中は行いを慎しんでいること、欽天監用に製造する儀器の略圖を同封すること、これらの儀器の詳細について。(羅)

- (22) Buglio, Magalhaens, Verbiest→康熙帝。一六七〇年十二月。一六六九年六月二十一日の嘆願書が部分的効果しかあげなかつたので、三宣教師はこの第二の嘆願を行つた。このなかで彼らは約半世紀に亙る宣教師の奉仕、シャルルの名譽恢復の際の皇帝自身の行爲、皇帝が北京の神父達に與えた好意などから説きすすめて、自分達の希望を是非容れてほしいと述べている。(羅)

- (23) Verbiest→イエズス會士 Thomas Valguarneria

一六七一年七月十日。皇帝は佛教僧侶達を使つて兩乞を行つた。その行幸の機を利用して皇帝に宗教について簡単な講話を言上したこと。(葡)

- (24) Verbiest→ロシア皇帝 Alexis Michailovitch 一七六六年九月。ロシア使節 Spatar を中國宮廷に迎えたこと、自分はロシア語の外になお六つの語學の通譯の仕事をしていること。自分が中國語及び滿州語で書いた著書を贈呈すること、自分や北京の宣教師が皇帝に抱くと同じ感情を自分達に示して欲しいこと。(露)

- (25) 康熙帝→Verbiest 一六七八年。フェルピーストの宮廷奉仕に對する皇帝の讚辭。(羅)

- (26) Verbiest→巡察使 Sébastien d'Almeida 一六七八年一月七日。フェルピーストは一六七七年に中國副管區長となつていたが、巡察使の手を通じてインドシナ駐在の代牧で、ポルトガルの布教保護權から獨立した布教聖省所轄の僧である Belyte の司教に服屬宣誓を行うようにとの會長命令を受取つた。彼はこれに對してこの命令の實行は困難だと思ふと答へ、議論を盡して自己の立場を辯明している。(羅)

- (27) Verbiest→Almeida 一六七八年二月八日。中國に修

練院を造るべきか、また中國人司祭を作るべきかという
巡察使の質問に答え、神父二をもつ學院を設立すること
の必要と、中國人を司祭に敍することは必要だが、現下
の状態ではイエズス會において信仰の誓いを行う者だけ
を任ずべきであるということを述べている。(葡)

(28) Verbiest→Almeida 一六七八年八月十五日。中國人
を神父に敍することが絶対に必要であること、しかしこ
れは漸次にまた慎重に行うべきであること、修練院はマ
カオではなくて中國内地に設けられるべきであること、
修練院ではラテン語でなく中國語で教授されるべきであ
ること、中國人司祭は聖職の實施、ミサ舉行の際には中
國語を使用すること、各教宅の近くに學校を作つてそこ
で讀み書きを教授すべきことなど。(羅)

(29) Verbiest→教皇 Innocent XI 一六七八年八月十六
日。新教皇の就任を祝ひ、中國文祈禱集と、やはり中國
文の天文學著述の一部を贈呈する旨を述べ、さらに天文
學によつて彼が宮廷に得た勢力のおかげで、中國布教は
量り知れない利益を得ていることを告げ、自分に對する
各方面からの批判に間接に答えている。(羅)

(30) Verbiest→ヨーロッパ。在住イエズス會士。一六七八
年八月十五日。副管區長としての資格でヨーロッパのイ

エズス會士に呈した訴え。人的にも經濟的にも中國布教
は極度に制限されていること、現狀はフェルピーストが
天文學やその他の科學による奉仕によつて皇帝の保護を
受けているため、福音の宣教に好的なものとなつてい
ること、また將來中國に來るべき宣教師の備えなくてはな
らない資質、近隣諸國の教化のための中國改宗の重要性
について。(羅)

(31) Verbiest→宛名不明。一六七八年九月一日。禮狀。こ
の禮狀の傳達のおくれたことを辯解し、おくれた理由は
永年の間あらゆる通信を杜絶させた戰爭にあるとしてい
る。(羅)

(32) Verbiest→ポルトガル王 Alphonse VI 一六七八年
九月七日。布教保護權成立以來ポルトガル王が布教、と
くに中國布教に與えた貢獻に對して感謝の意を述べたも
の。ポルトガルが中國において握つてゐる特權的地位に
ついての記述。(羅)

(33) イエズス會士 Jean Dominique Gabiani→北京在住
宣教師。一六八〇年十月五日。ドミニコ會宣教師 Domi-
nique Navarrete が提起した典禮問題に關する諸件に
ついて北京在住宣教師に相談したもの。(羅)

(34) フランシスコ會士 Bonaventure Ybañes→Ver-

biest 一六八〇年十月二十六日。廣東在住の Ybañes がフェルビーストに對し、中國のキリスト教徒のためにその健康と長生とを願つたもの。廣東で多數の中國人が死刑に處せられたこと、皇帝が廣東を海港としようとしてゐるが、それが實現すればマカオは死滅の危険があること。(西)

(35) Verbiest→Gabiani 一六八一年。(33)に答えたもの。Navarrete の提起した問題をいぢいぢ反論したものの。典禮問題に關するフェルビーストの見解が極めて詳細に表明されている。(羅)

(36) フランシスコ會士 Augustin de S. Pascal→Verbiest 一六八一年一月十八日。濟南府居住の Pascal がキリスト教徒と異教徒との間に生じた三つの確執について記し、キリスト教徒のために救助の手をさしのべてくれるよう求めたもの。(西)

(37) Pascal→Verbiest 一六八一年一月二十四日。右の第三件について詳報し、さらに救助を求めたもの。(西)

(38) Pascal→Verbiest 一六八一年三月四日。二つの町でキリスト教徒が投獄された事件に對して送つた前二便の情報の修正。一軒の家を購入したいから紹介状を貰いたいということ。(西)

(39) Verbiest→イエズス會長 Jean Paul Oliva 一六八一年九月十五日。中國副管區顧問兼北京布教長としての會長への布教狀況報告。(羅)

(40) Verbiest→イエズス會士 Charles de Noyelle 一六八一年九月十五日。皇帝および宮廷人の面前でフェルビーストが造つた二門の砲を試験したこと。最近死亡した二皇后の葬儀が行われたこと。黄河の洪水とたたかうために巨費が投ぜられたこと。(羅)

(41) Verbiest→マカオ修道院長 Joseph Tissanier 一六八一年九月十五日。中國の一官吏が台湾の賊と關係をもつていたという科で逮捕されたこと、朝廷は地方で群集を集めているあるにせ豫言者に對して斷乎たる處置をとらうとしているから、宣教師は信者を集合させる場合、充分なる配慮を要すること、Pereira 師がオルガンとカリオンを結びつけた一樂器を作り終つたこと。(葡)

(42) 教皇 InnocentX→Verbiest 一六八一年十一月三日。(29)に答えたもの。贈物に感謝し、布教に資するため世俗的な學問を利用していることを褒揚し、この方法ですすむようフェルビーストを獎勵したもの。(羅)

(43) アゴスチーノ會士 Alvaro de Venavente 一六八二年一月七日。フェルビーストの書簡を受領したことを報

じ、肇慶に一家屋を購入したこと、見込がありそうだということ、ひたすらフェルビーストの指導に従つて布教を進めて行きたいということ告げたもの。(西)

- (44) Ybánes→Verbiest 一六八二年二月二十三日。フェルビーストが皇帝の命によつて大砲二百門を鑄造したことを祝賀し、山東の教狀を傳えたもの。(西)

- (45) 司教 Ferdinand de Peymont et Fuerstenberg →Verbiest 一六八二年三月二十五日。(30)に感動したこの司教が、八人の宣教師を中國および日本に維持できる資金を提供することを傳えたもの。(羅)

- (46) Verbiest→Noyelle 一六八二年八月二日。フェルビーストの韃靼(滿洲)旅行記として極めて有名なもの。各國語に翻譯され、日本語にもラテン原文からではないが、衛藤利夫氏「韃靼」にその譯が載っている。(羅)
- (47) Pascal→Verbiest 一六八三年一月九日。フェルビーストがフランシスコ派の布教の面倒を見てやつたことに對して謝意を表わしたもの。(西)

- (48) Verbiest→Grégoire Lopez 羅文藻。一六八三年一月十五日。布教聖省が一六八〇年一月二十日の教令で望んでるように、中國在住の宣教師が布教聖省の代牧に服従を宣誓したならば中國布教は重大な危険に見舞われ

るということを述べたもの。(羅)

- (49) ドミニコ會士 François Varo→Verbiest 一六八三年八月九日。フェルビーストがドミニコ會士に與えた配慮に對して謝意を述べたもの。(西)

- (50) Verbiest→Oliva 一六八三年十月二日。皇帝に隨行して韃靼に二回目の旅行を行ったこと、布教狀況に關する年報。(羅)

- (51) Verbiest→Couplet 一六八三年十月四日。右第二回韃靼(蒙古)旅行の詳報。當時の蒙古事情を記した貴重な記録、六十才に達したフェルビーストにとつてはこれは苦しい旅であつた。(羅)

- (52) Verbiest→福建居住代牧 François Pallu 一六八四年一月十五日。布教聖省は中國布教にあたる全宣教師を代牧の管轄下に置こうとした。Palluはその目的で北京に赴きたいという書簡をよこしたが、フェルビーストは北京の宣教師の特殊な事情を述べてこれに反對した。(羅)

- (53) Verbiest→イエズス會長。一六八四年一月二十五日。一七七八年八月、一六七九年六月に彼が會長に送附した贈物に對する返事を受取つたことを述べたもの。多數の文書を同便で送るが、そのなかの二通は中國に布教している他修道會の神父の書簡で、ローマにおいて證據書類

として役立つであろうといっている。(羅)

- (54) Verbiest→布教聖省樞機卿。一六八四年一月二十五日。一六八四年一月二十五日。中國在住の宣教師に代牧への服従宣誓を強要することが、中國布教に及ぼす危険について力説したもの。布教の運命は全的に「數學」が皇帝に及ぼしている影響に依存しているものであるから、こくつまらないうちでもこの布教を完全に絶滅させるおそれがあるとす。(羅)

- (55) Verbiest→Innocent XI 一六八四年一月二十五日。一六八一年十二月三日附教皇書簡を送られたことに對する感謝の意を表わし、あわせて同日附で布教聖省に差出した自分の書簡に對して教皇が好意を示されるよう願つたもの。(羅)

- (56) ポルトガル王 Pedro II→Verbiest 一六八四年三月二十二日。(31) の手紙および贈物を受取つたことを告げ、フェルビーストが教會とポルトガルに果した奉仕に對して感謝の意を述べたもの。(葡)

- (57) Verbiest→宛名不明。一六八四年四月二十八日。他修道會の宣教師の書簡から十八の拔萃を行い、フェルビーストが欽天監の職を占めていることに對する攻撃、およびイエズス會が中國において他修道會宣教師を締出さう

と圖つているという非難に對する反證書類としようとしたもの。(羅)

- (58) Ferdinand de Pymont et de Fuerstenberg→Verbiest 一六八四年十月九日。(45) の布教基金寄贈の件について謝意を表したもの。(羅)

- (59) Verbiest→ドイツのイエズス會補佐 Nicolas Avancini 一六八四年十月二十五日。Avacini がドイツの補佐に任ぜられたことを祝し、また七月十七日に中國で死亡した Herdrich (恩理格) を賞讃し、フェルビーストが故人のために皇帝に乞うて墓碑に銘すべき「海隅之秀」という眞筆を得てやつたことを傳えたもの。(羅)

- (60) イエズス會士 François d'Aix de la Chaise→Verbiest 一六八五年二月二十六日。フランス王ルイ十四世の命によつて書かれたもの。ポルトガルの布教保護權を打破して極東に派遣されたフランス・イエズス會士の第一群はこの手紙がもたなつて來朝した。(佛)

- (61) Antoine Thomas→Verbiest 一六八五年七月十日。フランス・イエズス會士トーマスが大段的に準備を整え、仲間をひき連れて北京に赴くことを許されたことに對し、康熙帝に自分に代つて感謝の意を傳えてほしいと述べたもの。(羅)

- (62) Verbiest→Noyelle 一六八五年八月一日。宣教師に對する康熙帝の愛顧、とくにトーマを北京に呼び寄せるようになつたことについて。この命令が發せられたということは皇帝がヨーロッパ醫師を宮廷に置きたいと望んでいることを示すものであり、ヨーロッパ人醫師はやがては天文學者になつて貴重かつ缺くべからざる役人だと考えられるようになり、皇帝の深い親任を受けるに至るのであると述べている。(羅)
- (63) Verbiest→Avancini 一六八五年八月一日。Herdrich のために皇帝が書いた眞筆を送ること、皇帝が山東・江蘇に行幸した際、宣教師に好遇を示したこと。トーマに招命が發せられ、グリマルデイが彼を仰えにマカオへ向つたこと、皇帝は目下蒙古行幸中であること。これにはペレイラが隨行していること。(羅)
- (64) Verbiest→Lopez 一六八五年九月十三日。再び代牧に服従宣誓を行うことに關して自分のとつた處置を告げたもの。(羅)
- (65) Verbiest→Noyelle 一六八五年九月二十一日。華南で代牧達は婦人達に堅信の祕蹟を授けるのに際してヨーロッパで行われるように額ひたいに直接指を觸れているため、信仰上の極めて重大な問題が發生している。宣教師達から相談を受けたフェルビーストは中國の他の地方で終油式の際に行われるように道具を使つて塗油することが有效であると答えておいたが、この問題に關して布教聖省の樞機卿の迅速な決定を得てもらいたいと乞うたもの。(羅)
- (66) Verbiest→Duchesse d'Aveiro 一六八五年十一月十日。一六八二年三月七日附書簡を送られたことに對する謝辭を述べ、これを譯して皇帝の即近者何人かの面前で讀んだことを傳えたもの。(羅)
- (67) Verbiest→Noyelle 一六八五年十一月十日。前年シヤム使節が來京した際、フェルビーストが面倒を見てやつたというので、シヤム王から感謝の手紙と重さ六十リールもある金製の十字架を贈られたことを記し、シヤムに教宅を建てることは他の國で迫害を受けた際の避難所として役立つものであると述べている。(羅)
- (68) Verbiest→Noyelle 一六八五年十一月十四日。トーマを迎えに行つたグリマルデイは歸つて來て、ゴアに醫學のことに精しい助祭がいることを告げた。この男を北京に移せば八月一日附の書簡に記された問題は一時的に解決できると思われるから、必要な命令をゴアに送つてほしいと述べたもの。(羅)

(69) Verbiest→Avancini 一六八五年十一月十七日。ドイツ皇帝とポーランド王とに最近トルコに對して博した勝利を祝賀する書簡を傳達してほしいと述べ、またモスクワにイエズス會士がいるかどうか、いないならばこの中國にまで廣がつている帝國に入りこむことが大いに望ましいと傳えたもの。(羅)

(70) Verbiest→Duchesse d'Aveiro 一六八六年九月一日。公妃のかずかずの好意に感謝し、自分の著した天文學的著述のうちから選んだものを贈ると述べている。(羅)

(71) Verbiest→Noyelle 一六八六年九月一日。當時フィリップに派遣される筈のイエズス會士がはつきり處置が決らないままにマカオに滞在していた。これに對してフェルビーストが副管區長代理としての資格で早急にこの問題を解決してくれるよう請うたもの。(羅)

(72) Verbiest→Noyelle 一六八六年九月二十一日。マカオが滅亡の脅威を受けていること、オランダ人がポルトガル人を中國から逐出し、カトリック宣教師の朝廷における勢力を掃すために、康熙帝とモスクワとの間の文書交換に仲介の勞を採らうと申し出ていることを述べ、これに對抗するためにグリマルディをヨーロッパに

派遣することに決めたことを傳えたもの、グリマルディは康熙帝の書簡をモスクワに傳達するとともに、中國布教の問題やマカオの問題を調整する役を勤めることにならうというのである。(羅)

(73) Verbiest→Nicolas Spathar Milesescu 一六八六年十一月二十四日。ロシア使節の一行はこの月の十日に北京に到着し、その翌日宮廷で清露問題に關する會議が開かれたが、北京にはロシア語を充分に解する者がなかつたためロシア語で書かれた公文書に返答することができなかつた。使節一行にはラテン語を解する男をすくなくとも一人含まなくてはならないであらう。フェルビーストは Spathar に對してグルマルディを推薦したのがこの手紙である。(露)

(74) Verbiest→康熙帝。一六八七年五月三日。フェルビーストが皇帝のために果した奉仕の數を並べて、皇帝に天主教信奉の自由を宣明し、天主教に對する非難攻撃を抑壓する勅諭を出して欲しいと請うたもの。(羅)

(75) Verbiest→La Chaise 一六八七年十月一日。七月に中國に到着した五人のフランス・イエズス會士を助けるために全力を盡そうと述べ、彼等をめぐる環境はよくないが、打開のための處置をとつたこと、ルイ十四世に謝

意を傳えてほしいこと、新宣教師を迎えるに際して自分が行った援助について嚴重に祕密を守つてほしいことを記している。(羅)

- (76) Verbiest→Noyelle 一六八七年十月一日。フランス・イエズス會士が到着した話を概述し、フェルビーストがこれらの宣教師をポルトガルの布教保護權を破つて中國に迎えるように骨折つたことに對してペレイラが反對していること、モスクワ、シベリヤ經由で北京と文通することの有利さを記している。(羅)

- (77) Verbiest→Noyelle 一六八七年十月二日。トーマがポルトガル人でない通信者達と文通しているということとフェルビーストの許へ非難が持込まれたのに對し、フェルビーストが彼を辯護し、トーマこそは國家主義者の意識のない立派な宗教者で、將來布教管理職に任せられるに足るだけのすぐれた才能をもっている人であると述べたもの。(羅)

- (78) La Chaize→Verbiest 一六八八年一月十五日。シベリヤ經由であらたにフランス宣教師を中國に派遣する計畫のあること、その六宣教師各自についての情報、極東布教に對する攻撃を反駁する著述の公刊がパリで進行中であること、天文學上の觀測、および他の科學に對す

るデータを送つてほしいこと。(佛)

- (79) Verbiest→康熙帝。一六八八年一月。フェルビーストは一六八八年一月二十八日に死んだが、その臨終に際し皇帝に上呈するよう遺したものである。Le Comte; Nouveaux Mémoires sur l'État présent de la Chine 所載。自分が皇帝のために奉仕したのは、ひとえに皇帝に聖教の保護者となつて戴きたかつたからであるということ、死後も記憶して置いて欲しいと述べている。(佛)
- (80) ポーランド王 Jean III Sobieski→Verbiest 一六八八年十一月十六日。(69)に答えたもの。ポーランド在住のイエズス會士に對して好遇を與えようということ、中國皇帝がポーランドの勝利に關心を持つたことを喜び、この旨を皇帝に傳えてほしいこと、中國皇帝の統治の繁榮を祈ること、皇帝が天主教とイエズス會士に保護を加えていることを知つて嬉しいということ。(羅)

本調査は文部省科學研究費による調査である。

(埼玉大學助教授)